

# 高等部だより

岡山大学教育学部  
附属特別支援学校高等部  
7月号 令和6年7月2日(火)

## 前期「産業現場等における実習」が(ほぼ)終了しました!

6月10日(月)から21日(金)まで、前期現場実習が行われました。実習先の都合等で、本来の期間から遅れて実習を行った生徒もいました。実は7月5日(金)まで実習を行っている生徒もいます。(ほぼ)終了としているのはそのためです。

1年生は、初めての現場実習でした。あおぎりハウスを事業所に見立てて、毎日出勤しました。作業内容は、菓子箱の組立、カーナビ本体の解体、そして学校の近くにある、リハビリ特化型デイサービス「タイオンデイトレ平井」様での清掃でした。毎日毎日、午前も午後も仕事の生活を続けていくうち、傍から見ても、心にも身体にも疲れが溜まってきているのがわかりました。それでも全員、休まず実習に取り組めたことがまず素晴らしかったと思います。それだけでなく、箱の組立では、最初は折り目付けしかできなかった生徒が、箱を組み立てられるようになったり、働く学習を行うために場をお借りしている立場でありながら、スタッフの方や、利用されているお客様から、「ありがとう」と声を掛けていただけるくらい、一生懸命清掃に取り組んだりすることができていて、1年生の皆さんは、仕事のしんどさだけでなく、できるようになる喜びや誰かの役に立っている実感を得ることができたのではないかと思います。

2年生は、初めての校外での現場実習でした。初めての場所で、たった一人で、事業所の方の指示や助言を聞きながら仕事をするということは、とても大変なことです。にもかかわらず、今回の実習が基準となり、2年生の後期や3年生の実習をどうしていくかを考えていくことになる大切な実習です。実習中のエピソードや実習後の生徒の話の話を聞いていると、学校では見せないような姿が見られて、意外な力を発揮していたり、次の実習ではこんな業種に挑戦してみたいと話していたりと、前向きに取り組んでいることが伝わってきました。しかし、それぞれの課題も見えてきたと思います。校外に出てみて明らかになった課題もあるかもしれませんが、多くの課題は学校でも課題となっていたことだと思えます。次の実習に向けて、また3年生の実習、さらには卒業後に向けて、その課題とどのように向き合い解決していくか、生徒本人・保護者の皆様と一緒に考えていき、日々の学校生活の中でも取り組んでいきたいと思えます。

3年生は、卒業後の進路先を決めるための前提実習でした。一人ひとりが自分の卒業後の生活を思い描きながら実習に取り組んだことと思えます。実習中の様子を聞く限り、皆ベストを尽くして取り組んだと信じています。それは、実習を終えて学校に戻ってきた生徒たちの、安堵と達成感に満ちた表情に表れていました。しかしながら、満足のいく実習ができればそれでよし、といかないのが3年生の実習です。ここからは自分の頑張りだけではどうにもならない部分があります。良い結果をもらい、卒業後の利用や就労に向けて、後期も同じところで実習できる場合もあれば、ベストを尽くしたけど、事業所の求める人材との間に隔たりがあったり、事業所の都合があったりで受け入れが困難な場合もあります。そのような結果になったときは、生徒本人のみならず、保護者も悔しいと思えます。むしろ本人よりも保護者の方がショックは大きいかもしれませんが、お子様のいちばんの応援者なので、お子様の力を信じて、心の中では泣いていても、我が子の前では次の実習に向けて前向きな姿を見せていただけたらと思います。もちろん、今後の具体的な方向性については、進路懇談会等でしっかりと話し合いながら進めてまいりますのでご安心ください。

最後になりましたが、保護者の皆様には、家での体調管理や励まし、面接・参観・懇談などご協力ありがとうございました。(今月も文字ばかりになってしまい、すみません)

